

# 神戸市外大だより

VOL.216  
Spring

本学は、令和5年4月より神戸市立工業高等専門学校と同一法人下での運営を開始いたします。それに向け、神戸市長からの任命により、令和4年4月から前・神戸大学長である武田廣が新たに理事長として就任しました。

## 本学の印象は？

こじんまりした良い大学で環境が非常に良いという印象です。キャンパスもまとまっており、大きな大学と比べ、学生さんも動きやすいと思います。

また、学園都市という教育に特化した場所の中にあり、コミュニケーションや交流がしやすく、学生生活を送りやすいのではないかと感じました。

## 大学時代はどのような学生でしたか？

非常に刺激の多い学生生活でした。当時、東大紛争が起きた時代で、大学の在り方そのものに対して異議を唱えることに抵抗がなく、世の中も揺れ動いていた時代でした。

大学に入学してすぐに大学が封鎖になりました。田舎から東京に出てきたばかりで、何をしたら良いか分からない。周りで起きていることがよく分からない。どうしたらよいか分からない。まさに今のコロナ禍と同じような状況でした。

そんな中、私は手あたり次第に本を読みました。本には自分では見つけられない面白さがあります。当時、専攻は理系でしたが、第二外国語でドイツ語をとっていたため、ドイツ語で書かれた文学系や社会学系の本なども読みました。アルバイトで稼いだお金はすべて本に注ぎ込んでいたぐらいです。物理は大学が教えてくれるので、自由な時間は自分の興味の赴くままに本を読む。それが専門分野に役立ったかは分かりませんが、人間として見たときにとても意味があったと思っています。

また学生時代は、アルバイトで土地の測量やビルの警備、家庭教師などをしていました。

大学院にも進みましたが、学生時代はとにかく充実しており、ぼーっとしている暇がなかったように思います。

## 座右の銘『随所に主となれ』

行く先々で一番になれという意味ではなく、行ったところ、色々なシチュエーションの中で全力を尽くせという意味です。組織の中でトップに立て！と解釈する人もおり、捉え方は様々ですが・・・私自身、大学の専攻は物理を選びましたが、当時はっきりとした目標があったわけではありません。大学院卒業後、研究職の道を選び、突き進んできました。ただ、その場その場で一生懸命考えてやりました。結局はその場その場で、主体的に物事を考えていかなければなりませんよ、ということだと思っています。



## 武田 廣 新理事長 インタビュー

・愛媛県出身 ・東京大学卒

## 休日はどのように過ごされていますか？

昔は休日はほぼなかったです。研究のためヨーロッパにおり、土日何だかんだと仕事をしていました。これがいいことかどうかは分かりませんが、若いときは面白いからやっていた。あまり苦にはならなかったですね！

現在はそれなりに土日は自分の時間を取るようになっています。40歳を過ぎてからテニスを始め、60歳を過ぎてからゴルフを始めました。現在の休日はゴルフ最優先で過ごしています！

## 学生に向けてメッセージをお願いします。

外国語大学ですので、外国とのつながりを大事にしてほしいです。私自身若いときに外国に出るチャンスを得て、ヨーロッパに行かせてもらいました。この経験は何にも代えられないものになりました。本学ではそういう機会があり、それはとても有利なことだと思います。ぜひ十二分にその機会を利用させていただきたいと思います。また、自分の学科だけでなく、若いうちいろいろな世界を見てきてほしいと思います。